

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 37 人

② 算数 37 人

③ 理科 37 人

5 留意事項

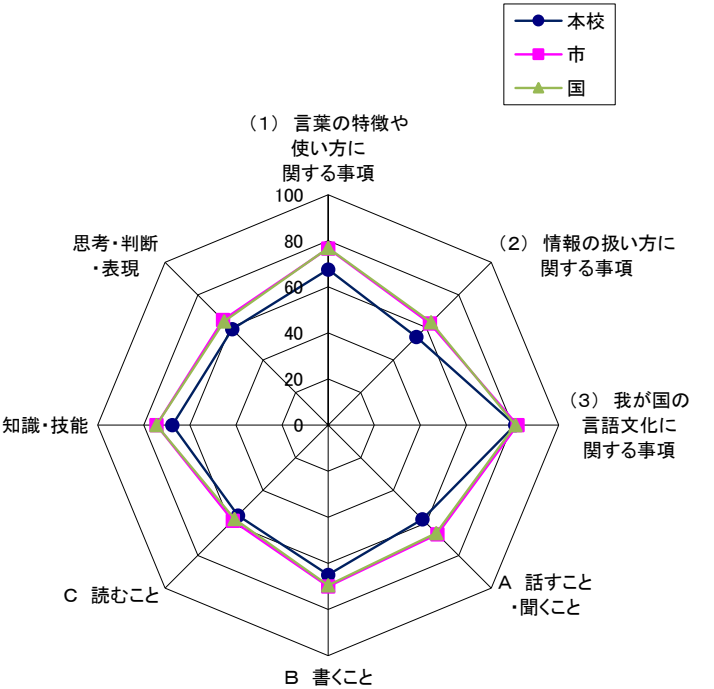
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.6	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	54.1	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.1	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	57.7	67.0	66.3
	B 書くこと	64.9	70.0	69.5
	C 読むこと	55.4	58.6	57.5
観点	知識・技能	67.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	58.9	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

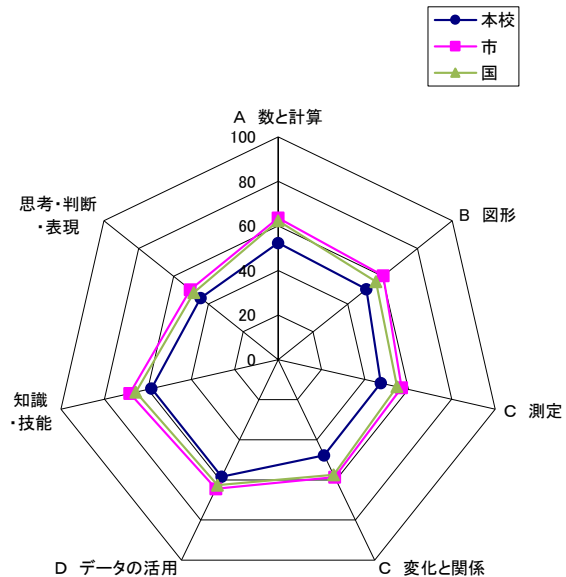
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	校内平均正答率は67.6%で市の平均より9.1ポイント低い。 ●「漢字を文の中で正しく使う」問題(暑い)の本校の正答率は54.1%で、市と比べると14.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際には同音異義語があることを知らせ、どの漢字を使うかを正しく選べるように引き続き指導していく。 ・授業場面はもちろん日常の学校生活の中で、積極的に漢字を使うよう促し、習慣付けていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	校内平均正答率は54.1%で、市の平均より8.3ポイント低い。 ●「話し合いの記録」の書き表し方を説明したものととして最も適切なものを選ぶ」問題での本校の正答率は54.1%で、市の平均より8.3ポイント低い。	・国語科だけでなく、総合的な学習の時間や社会科の授業等、他の教科においてもウェビングマップなどを作る機会を設け、情報と情報とを関係付けて捉えたり図に表したりできるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	校内平均正答率は81.1%で市の平均より1.0ポイント低い。 ●「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付けるかを問う」問題の本校の正答率は81.1%で、市の平均よりも1.0ポイント低い。	・国語科だけでなく他教科との関連を図りながら、言葉の変化を捉えたり、言葉は使う世代によっても言い方が変わることに関心させたりしていく。
A 話すこと・聞くこと	校内平均正答率は57.7%で市の平均より9.3ポイント低い。 ●「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを問う」問題の本校の正答率は37.8%で、市の平均よりも18.3ポイントであり大きく下回っている。	・日頃から意見を交流する機会を多く設け、意見を交流する際には、話す内容をメモに書き起こして整理し、その中から必要な内容を取捨選択できるようにする。 ・インタビューの際には、話し手の考えと比較しながら聞いたり自分の考えをまとめたりできるようにする。
B 書くこと	校内平均正答率は64.9%で、市の平均より5.1ポイント低い。 ○「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができるかどうかを問う」問題の本校の正答率は64.9%で、市の平均よりも3.6ポイント高い。 ●「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題の本校の正答率は67.6%で、市の平均よりも15.2ポイントと大きく下回る。	・機会を捉え、与えられた情報を使って、条件を満たした文章を書く活動に取り組ませるようにする。 ・ちらしなどの資料を読み込む際には、図と言葉との関係について考えさせたり、その効果について目を向けさせたりする。
C 読むこと	校内平均正答率は55.4%で、市の平均より3.2ポイント低い。 ○「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」問題の本校の正答率は86.5%で、市の平均より3.9ポイント高い。 ●「目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付ける」問題の本校の正答率は29.7%で、市の平均より12.9ポイント低い。	・資料を読み取る際には、事柄の順序に気を付けたり、資料の中の重要語句に目を向けたりして、読むように指導していく。 ・複数の資料を読む機会を設け、それらの資料の中から大切な情報を関連付けながら読みとる学習を意図的に取り入れていく。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	52.4	63.6	62.3
	B 図形	50.7	60.4	56.2
	C 測定	47.3	56.9	54.8
	C 変化と関係	47.7	58.6	57.5
	D データの活用	58.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	58.3	68.3	65.5
	思考・判断・表現	44.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

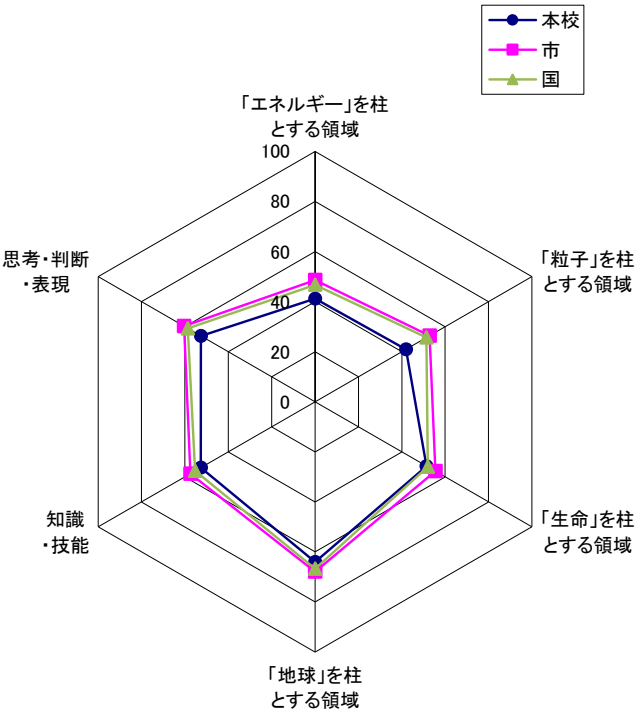
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	校内正答率は52.4%で、市の平均より11.2ポイント低い。 ○「 $1/2 + 1/3$ を計算する異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる」問題の正答率は81.1%であり、市の平均より0.5ポイント高い。 ●「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は59.5%であり、市の平均より17.4ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算ドリルなどを中心に、計算問題の練習を取り入れ、基本的な計算力の向上を図っていく。また、分数の仕組みやそれを含む計算の仕方を再確認し、反復練習を行う。 ・問題の意図する内容を正しく読み取り、様々な文章問題に触れさせ、応用問題への対応力を高めることができるよう指導を行う。
B 図形	校内平均正答率は50.7%で、市の平均より9.7ポイント低い。 ●「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図できるかどうかをみる」問題の本校の正答率は37.8%であり、市の平均より23.1ポイント低い。 ●「角の大きさについて理解しているかどうかをみる」問題の本校の正答率は70.3%であり、市の平均より9.4ポイント低い。	・それぞれの図形の特徴や性質について整理したり、実際に作図したりすることを通して、平行四辺形の特徴について定着を図る。 ・分度器を用いて角の大きさを測定する活動を通して、角を構成する直線を延長しても角の大きさは変わらないことを実感として体験させることで、理解を深める。
C 測定	校内平均正答率は47.3%で、市の平均より9.6ポイント低い。 ●「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を記述する」問題の本校の正答率は40.5%であり、市の平均より9.6ポイント低い。 ●「はかりの目盛りを読む」問題の本校の正答率は54.1%で、市の平均より9.5ポイント低い。	・問題文で問われている内容を図に表しながら、正しく理解させるようにする。また、数量の大きさの求め方を友達同士で互いに説明し合う活動を多く取り入れる。 ・はかりの実物を用いて様々なものの重さを測る活動を通して、実体験を基にはかりの目盛りの正しい読み方を身に付けさせる。
C 変化と関係	校内平均正答率は47.7%で、市の平均より10.9ポイント低い。 ●「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、調べるために必要な事柄を選ぶ」問題の本校の正答率は67.6%で、市の平均より15.6ポイント低い。 ●「10%増量の内容量が、増量前の何倍かを選ぶ」問題の本校の正答率は35.1%で、市の平均より7.3ポイント低い。	・問題文で問われている内容の意味を、図や表に表しながら筋道を立てて分かり易く説明したり、友達の説明を聞いたりする活動を日常的に設けていく。 ・小数の倍数の意味を理解していない児童が多いと思われるため、数直線や図を使って小数の倍数を表したり、身近な例で説明したりする活動を多く取り入れる。
D データの活用	校内正答率は58.4%で、市の平均より6.0ポイント低い。 ○「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題の正答率は45.9%であり、市の平均より9.9ポイント高い。 ●「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる」問題の正答率は59.5%であり、市の平均より17.4ポイント低い。	・それぞれの表やグラフの特徴をつかんだ上で何を表しているかを読み取り、示されたテーマについて適切な表やグラフを選び、説明する力を身に付ける。 ・算数はもとより他教科においても、実際に表やグラフを読んだり書いたりする活動を取り入れ、様々な表やグラフを読み取る力を身に付けていくようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.2	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	41.9	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	51.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	64.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	52.7	57.5	55.3
	思考・判断・表現	52.6	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	校内正答率は41.2%であり、市の平均より7.4ポイント低い。 ○「乾電池のつなぎ方について直列つなぎで電磁石を強めるものを選ぶ」問題の正答率は64.9%であり、市の平均よりも6.5ポイント高い。 ●「電気を通すものと通さない物で回路を作り、ベルが鳴る回路を選ぶ」問題の正答率は24.3%であり、市の平均より19.7ポイント低い。	・知識を日常生活や他の場面と関連付けて考える力を高めるために、興味・関心がもてる教材や生活と結び付けて考えられように課題の工夫を図っていく。 ・問題の条件を適切に読み取り、図と関連付けて考えたり、自分の考えを表現したりする問題に課題が見られるため、状況の把握を丁寧にしたり、キーワードを利用するなどして表現する機会を日常的に設けていく。
「粒子」を柱とする領域	校内正答率は41.9%であり、市の平均より10.9ポイント低い。 ●「水の温まり方について、解決するための観察、実験の方法を検討したり表現したりする」問題では、校内正答率が40.5%であり、市の平均よりも11.9ポイント低い。	・実験の目的と過程、結果が対応するようにするとともに、自分の考えをもち、キーワードを利用するなどしながら、記述したり表現したりする機会を日常的に設けていく。 ・観察や体験を積み重ね、基本的な知識・技能を身に付けるとともに、多面的に分析できる力を高めることができるよう、問題を追究する活動を多く取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	校内正答率は51.4%であり、市の平均より4.1ポイント低い。 ○「花のつくりや受粉についての知識を問う」問題では、正答率が75.7%で、市の平均より1ポイント高い。 ●「発芽条件の差異や共通点から、新たな問題を見いだす」問題では、正答率24.3%であり、市の平均より9ポイント低い。	・何を確かめるために実験をしたり観察をしたりするのかを考え、学習内容を理解したり、表現力を高めたりできるようにしていく。 ・問題に提示された条件や趣旨に合った考察をする経験を積み重ねることで、まとめ方や表現の仕方など書く機会を設けていく。
「地球」を柱とする領域	校内正答率は64.0%であり、市の平均よりも3.9ポイント低い。 ○「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめた理由を結果を用いて表現する」問題は、正答率が70.3%であり、市の平均よりも8.1ポイント高い。 ●「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化する」という知識をもとに説明しているものを選ぶ」問題は正答率が51.4%で、市の平均より12.8ポイント低い。	・言葉の意味や状態変化の様子という知識は身に付いているため、それぞれの状態がなぜ起きているのかといった関連付けや表現に取り組み、表現力や理解度を高めしていく。 ・観察や体験を積み重ねたり、実験と結果を関連付けたりすることを意図的に行っていくことで、学習理解につなげるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は88.2%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対する肯定的な回答は100%となり、県・全国平均を上回っている。これは、登下校や縦割り班での活動、委員会活動、学校行事等、様々な場面で、児童が高学年としての役割を担う機会を多く設けていることや、それに対して児童一人一人が責任をもって活動に取り組み、協調性や自己肯定感が高められているからだと考えられる。今後も、互いに協力し励まし合いながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教職員間で共有し、励ましたり称賛したりすることで、課題に対して諦めずに粘り強く取り組んでいこうという気持ちがもてるようにしていく。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答は100%となり、県・全国平均を上回っている。これは、学校全体でのいじめに対する指導やいじめゼロ強調月間等の継続した取り組みから、いじめは絶対にしてはいけないことだという意識が児童に定着しているからだと考えられる。今後も継続して指導し、いじめ根絶に取り組んでいきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答は100%、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」に対する肯定的な回答は80.4%、「友達関係に満足していますか」に対する肯定的な回答は96.1%となり、県・全校平均を上回っている。これは、友達との関わりを大切にしてきた学校や学級の取組の成果と考えられる。また、授業における協働的な学びとして、探究的な学習や体験活動を通して他者との意見交換などの学び合いを体験し、友達と関われることのよさを感じているからだと考えられる。今後も様々な学びができる学習を積極的に取り入れていくようにする。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」に対する質問では、「2時間以上視聴している」と回答した児童の割合は39.2%で、県・全国平均を上回っている。また、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」に対する質問では、「2時間以上使用している」と回答した児童の割合は、50.9%で、県・全国平均を上回っている。テレビやDVD、動画などの視聴時間やテレビゲームで遊ぶ時間が長いことで、学習時間が十分に取れていないことが考えられる。児童に家庭における動画視聴やテレビゲーム使用の時間について重点的に指導を行うとともに、家庭におけるルールの設定や使用時間についてノースマホデーの際に家庭で話し合う機会を設けてもらう等、家庭と連携して対応していきたい。

●「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」に対する肯定的な回答は78.4%で、県平均より6.9ポイント、全国平均より4.8ポイント下回っている。条件を理解し、条件に応じた文章を書く活動を意図的に授業の中で設定していく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合いを通した、コミュニケーション能力の向上	自分の考えをもたせるための支援の工夫と、自分の考えを表現する場の設定や学習形態の工夫	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均より5.8ポイント下回った。「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、県の平均を11.5ポイント下回っていた